

事業名	気候変動に打ち克つスジアオノリ安定生産技術の開発
予算区分	交付金事業(気候変動に打ち克つ農林水産適応技術開発プロジェクト)
事業実施期間	令和元～3年度
担当者	棚田教生
共同研究機関等	

#### <目的>

気候変動により生産が不安定になっているスジアオノリ養殖について、天然採苗場の環境調査を行うとともに、気候変動に適応した品種開発を試みた。

#### <方法>

##### ○漁場環境調査

鮎喰川河口のスジアオノリ天然採苗場にメモリー式水温塩分計を設置し、水温・塩分を連続観測した。

##### ○品種開発

近年の漁場環境に適応した品種の開発を目的に、幅広い塩分帯に耐性が期待できる吉野川水系の候補株について、養殖試験を実施した。比較対照として、鮎喰川河口で天然採苗した種苗(天然株)を用いた。

#### <結果>

##### ○漁場環境調査

水温:変動を繰り返しながら降下していたが、10月下旬から停滞し、11月上旬に上昇した。

その後は変動しながら緩やかに低下し、11月下旬には15℃を下回った。11月末までの水温環境としては過去2年と比較して高かった。

塩分:10月下旬と11月上旬に一時的に淡水化したものの、期間全体では極端な淡水化はみられず、概ね15～30psuの範囲で推移した。

##### ○品種開発

候補株と天然株の生長を比較すると、候補株の平均藻長は12月20日には天然株の1.6倍、翌年1月17日には1.3倍であった(図3)。両調査日における表層水温はそれぞれ10.5℃及び8.5℃であり、スジアオノリの生長にとっては不適とされる低水温期であったが、候補株は天然株と比べて良好な生長を示した。

今漁期は11月後半の降雨により塩分及び水温が大きく変動し、養殖現場では藻体の脱色や脱落といった被害が発生した。また1月に入ってから栄養塩濃度が大きく低下し、1月中旬には貧栄養状態となった。このように今漁期も水温、塩分、栄養塩が大きく変動する環境であったが、候補株は天然株と比べて良好な生育であったことから、幅広い環境条件に適応している可能性が示された。

### <今後の課題>

漁場環境及び生産状況については引き続き把握に努める必要がある。

また品種開発については、複数年の漁場環境における再現性ひいては実用性を確認する必要がある。

### <次年度の計画>

引き続き漁場環境調査を行うとともに、スジアオノリ養殖漁場における食害の実態調査を開始する。

### <結果の発表・活用状況等>

特になし。

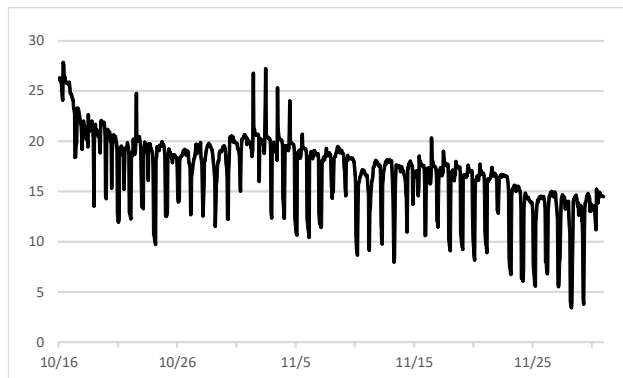


図1. 天然採苗場における水温(°C)の推移

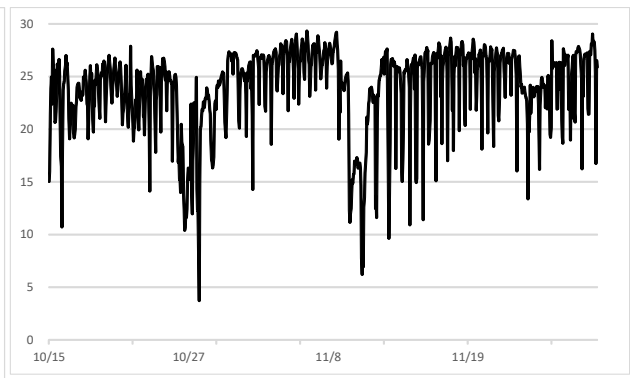


図2. 天然採苗場における塩分(psu)の推移

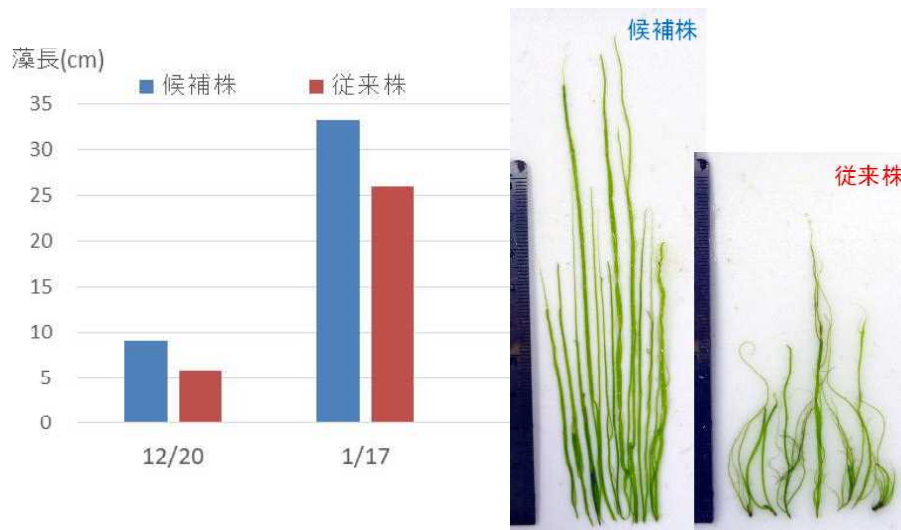


図3. 候補株と従来株の生長の比較(写真は12月20日におけるサンプル)